

## 自由論題 8 東アジアの企業・金融

### 報告 3

李素軒（東京大学大学院博士課程）

#### 「資本自由化以降の韓国における二つの外貨流動性危機の比較分析」

韓国経済は 1990 年代に入って本格化した資本自由化の動きの下で、1997 年アジア諸国を巻き込んだ通貨危機を経験した。それから約 10 年後の 2007-8 年グローバル金融危機の際、短期外貨資金の急激な逆流による外貨流動性枯渇及び通貨価値の暴落という 97 年危機と類似な様相で外貨流動性危機が再び起こり、新興国の中で比較的洗練された金融システムを持っていると考えられてきた韓国金融システムの脆弱性が浮かび上がっている。

資本自由化以降の韓国における二つの外貨流動性危機は、短期外債の急増による脆弱な対外ポジションが直接的原因であった点では類似しているが、それが作られた過程における主体と動機は異なっており、危機の波及構造、政府当局の政策的対応の様相においても相違点が多く見られる。本報告では、1997 年通貨危機を契機に行われた金融制度改革やそれによる韓国金融システムの変容という背景を踏まえ、二つの危機を①短期対外債務急増の原因、②実体経済への波及、③政府の対応という観点から比較分析する。97 年と 08 年危機の比較を通じて、金融グローバル化が進む中で新たな様相で現れる新興国の外貨流動性危機を考える材料として韓国の事例を検討し、事例からの示唆として、資本市場型金融システムへの移行に伴って生じた新たな金融不安定性の要素について述べ、報告を締めくくる。